

大分県南部に位置する緒方町の石橋に対する住民の意識調査

西日本工業大学 学生会員 高橋 雄一
 西日本工業大学 平尾 将之
 西日本工業大学 正会員 花倉 芳廣
 西日本工業大学 正会員 早川 信介

1. まえがき

一昨年および昨年は大分県の市町村の中で最も石橋の多い宇佐郡院内町での「住民の石橋に対する意識調査」及び「アーチ型石橋の現状」について調査を行いその結果を報告した。

本年度は大野郡緒方町に着目し、「住民の石橋に対する意識調査」について行った結果を報告する。

緒方町の石橋の数は院内町に次いで多くその架設年度は院内町の石橋の架設年度とほぼ同じ江戸末期に始まり大正時代のものがほとんどを占め、比較的新しいものが多い。同町の石橋は大野川の支流である緒方川に多く架けられており、地域住民の生活に密接に関わっている。

また、同町は九州で最も多くの石橋がある熊本県に隣接するという地理的位置にある。

2. 調査方法

調査方法としては、緒方町教育委員会・緒方町歴史民俗資料館の協力を得て各行政区長より緒方町の全世帯(2408世帯)に3枚ずつの計7224枚のアンケート用紙を配布して頂いた。

緒方町の人口は約7342名(平成8年4月)で1世帯に3枚配布することにより複数人の回答を得ることができるようにした。

現在、緒方町は多くの石橋が現存する石橋の町であるが町内の石橋群は老朽化が進み、その保存や現状を明確に把握し考えていく時期にきていると思われる。

今回調査したアンケート内容を「住民の意識度」「住民の認識度」「住民の意欲度」の3項目に大別し、それぞれに対する意見を頂いた。

3. 調査結果

実施時期は1997年11月、調査票数7224票に対し有効回収票数2445票を得え、回収率は33.8%であった。



数値はアーチ型石橋の数を表す

図-1 大分県市町村別石橋分図

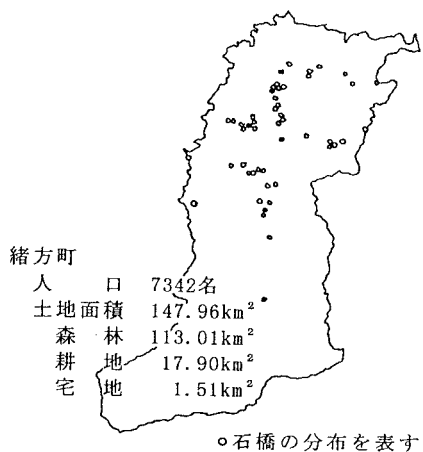


図-2 緒方町の石橋分布

アンケート結果より「石橋に興味がありますか？」の問いに対し、「石橋に興味がある」と答えた方が約7割を占める結果を得た。（図－3）

しかしながら、緒方町には約70橋の石橋が現在確認されているが、その数を正確に把握しているのは約6%（図－4）とかなり少ない。

また、「町内の石橋の名前をいくつ知っていますか？」の問いに対しては、1～5橋が約63%と最も多く（図－5）、これは家周辺の橋また、町内の知名度の高い橋を含めた数だと思われる。

次に「町内の石橋が自慢できますか？」の問いに対しては「石橋が自慢できると思う」と答えた方は約88%であり、石橋に対する評価は高いと言える。そのうち、自慢できる内容としては「現在でも利用できる」（約25%）、「技術（石工）が素晴らしい」（約29%）と両者を合わせると50%を越え、半数以上が当時の石工達の技術力を評価していることもうかがえる。（図－7）

また、「周辺の風景と合っている」が約22%と次いで多く、環境との調和を重視していることが分かる。

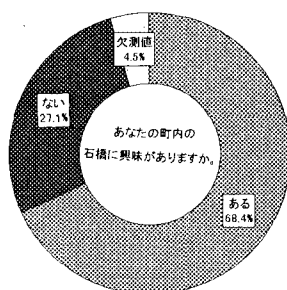
図－8に「町内の石橋を将来どうすればよいか？」の問いに対しては「別に橋を架けて文化財として保存」12%、「橋の修理・修復をする」17%、「自然を残し周辺環境の整備」の約29%を合わせた約60%の人々が保存に向けた対策を望んでいるように思える。

4・まとめ

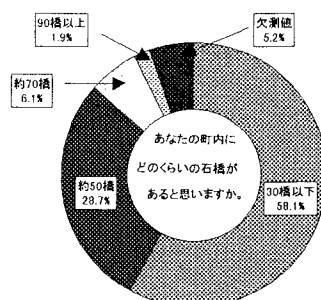
「住民の認識度」については、石橋が現存する数を答えた方は少ない。これに伴い石橋の名前の数を答える質問になると5橋以下が半数以上を占めており具体的に石橋の存在を理解し、認識はなされていないように思える。

これに対し、「住民の意識度」は高く、「現在でも利用できる」「技術（石工）が素晴らしい」を挙げる方が多く、また「そのままでよい」「別に橋を架ける」「橋の修理修復」を挙げる方が約半数を占め、石橋の存在がいかに住民生活に必要なかがうかがえる。

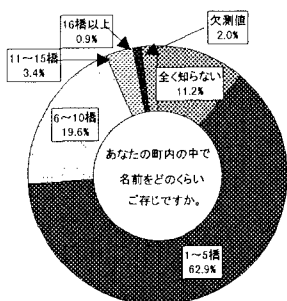
以上より石橋は住民の生活の一部としてなくてはならない存在であり、保存に対する意識が高いのがうかがえるため、今現在、老朽化した橋の将来を考えていく時期であろうと思われる。



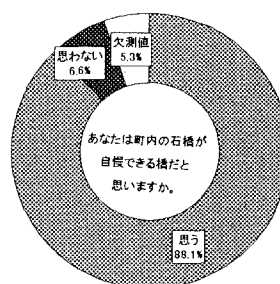
図－3 意識度・1



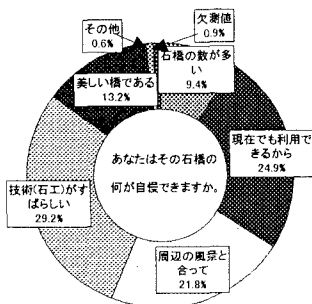
図－4 認識度・1



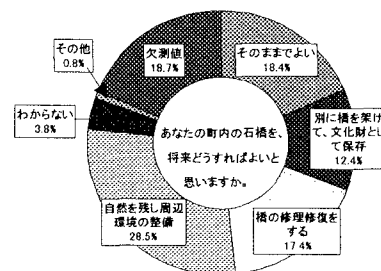
図－5 認識度・2



図－6 意識度・2



図－7 意識度・3



図－8 意欲度